

競技審判上の注意

- (1) 本大会は、公益財団法人日本バドミントン協会令和6年度競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程により行います。
- (2) 審判は、初回戦のみ大会本部にて割り当てます。それ以降は試合の敗者が次の試合の審判、勝者が得点係となります。線審は各チームから1名出して下さい。各種目の準々決勝より審判免許保有者にて審判をお願いします。当日は審判へのご協力をお願いします。
- (3) 試合進行は流し込み方式(試合番号順に空いたコートに入る)で行います。そのためコートの変更等もあり得ますので館内のコールにはご注意ください。
- (4) 試合が連続する場合は、原則として試合終了後15分後に次の試合を開始します。競技役員の指示に従い、選手は選手招集所にすみやかに集合してください。
- (5) バックバウンダリーライン後方にコーチ席2席を設けます。コーチ席に入ることができるのは、コーチ登録した監督・コーチのみとなります。
- (7) コールされたら指定のコートに速やかに移動し、審判はすぐに試合を開始して下さい。
- (8) コート入場後の公式練習はありません。
- (9) 各試合(マッチ)のインターバルは次のとおりです。
 - ①各ゲームにおいて一方のサイドが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。
 - ②第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。選手は20秒前にはコートに入ってください。
- (10) インターバル中でのアドバイスは、同時に2人までコートに入ってもよいが、審判が「20秒」とコールしたらすみやかにコートから離れてください。
- (11) 試合(マッチ)中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず審判の許可を得てください。

なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。

 - ①ドリンク容器は、倒れてもこぼれない蓋付きボトルを使用し、審判横の指定した場所に置いて下さい。
 - ②氷嚢は、コーチ席で小型の保冷バッグ(ソフトバック)等に入れ、保管してください。
- (12) 審判が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認めません。
- (13) シャトルの交換については審判が決定しますので、指示に従ってください。
- (14) 試合中のけがや病気に対しては、審判が判断します。審判が必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼んだ時は、競技役員長(レフェリー)の判断に従ってください。
- (15) 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手とコーチ席の監督・コーチのいずれか1名に限ります。試合(マッチ)中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、試合(マッチ)中はコートのそばに立ってはいけません。

また、監督・コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。

(16) 競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るかマナーモードにしてください。

(17) 試合中にモバイル機器(iPad・携帯電話等)を使用したアドバイス・コーチングは禁止します。

(18) 試合中の服装は、白または(公財)日本バドミントン協会審査合格品とし、試合時必ず上着の背面中央にゼッケンを付けてください。ゼッケンは縦 25 cm以内、横 30 cm以内とし、チーム名及び個人名(フルネーム)を明記してください。なお、文字の大きさは高さ 6 cmから 10 cmを厳守とし、ユニフォームの広告(ロゴ)については、令和 3 年 12 月 26 日付の日小連文書のとおりとします。また、ゲーム開始時には上衣の裾は下衣の中に入れてください。ゲーム中に出た場合は、ラリー終了後に再度入れ直してください。

(19) 監督・コーチは所定の名札(ID カード)を着用の上、服装は公認審判員規程第 23 条及び第 24 条を厳守して下さい

(20) その他は、代表者会議における打合せ事項のとおりとします。